Shukugawa Gakuin College

制作概要

第一次世界大戦直後の数年間 (1910 ～1914) をベル・エポック（良き時代）と呼んでいる。それはヨーロッパ各国がその経済的発展を背景とする帝国主義競争に狂奔する時代であり、人々は大戦前の平和な束の間を芸術に酔いしれることに費やしていた。

ポール・ポアレやマドレーヌ・ビオネらの革新的デザイン活動がようやく実を結び、コルセットに身を包まれたSカーブシルエットはその極端な窮屈な特長を少しずつ失い、ごく自然でスリムなシルエットに変化してきた。色彩ではプレーンな生地にはっきりコントラストをつけた扱いが、シルエットではストレートでシンプルな線が支配的になってきた。

作品は2010年9月23日NHK大阪ホール第78回NDK日本デザイン文化協会ファッションショー「Happy Moments ～その瞬間を生きる～」の第4部第3景フォーマルウェア部門Magic Skin ～魔法をまとって～に出品したイブニングドレスである。

黒を基調にした夜会服のシリーズとして、制作した私の研究課題作品である。コンセプトは赤と黒のコントラストを生かして、20世紀初頭のコルセットから開放された自然なシルエットのイブニングドレスをイメージしてデザインした。素材にはスパンチュールとオーガンジーを胸元と腰に、黒地に赤のバラのサテンを身頃とスカートに使用した。オーガンジーとスパンチュールで胸元のフリルとアッパースカートにボリュームをつけ、華やかで妖艶なスタイルを表現した。喧騒の世に、優雅にゆったりと輝いている女性を夢みてデザインした。

橘　喬子

「薔薇の園」
イブニングドレス
NHK 大阪ホール

NII-Electronic Library Service

仮縫い点検

トップサイド

フロント全身

バック全身

使用素材

サテン、スパークオーガンジー、スパンチュール、チュール

アクセサリー

イヤリング、ネックレス、ヘアアクセサリー、手袋

仮縫い点検

1）身頃の脇でサイズを調節した。
2）胸のフリルの長さと分量を修正した。
3）アッパースカートの長さと分量、膨らみ加減を修正した。
4）スカートのスリットを10ｃｍ深くした。

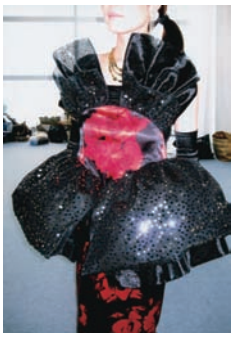
パターンメーキング

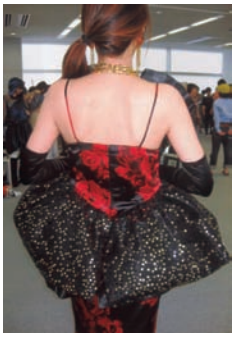
シーチングでビスチェドレスをモデルサイズに合わせてドレーピングでパターンを制作仮縫いした。胸のデコルテに合わせ、二段のフリルをはさみ、ウエストにも２段のギャザーを入れたアッパースカートを挟んだ。スカートはロングのタイトなシルエットにし、後に深くスリットを入れ、歩きやすくした。

縫製のポイント

1）胸のデコルテは花柄のサテンとスパークオーガンジーの２段のフリルをカーブに合わせて中央を長く、脇に行くほど短くして立体感を出した。
2）前身頃はウエストでＶに切り替え、２段のアッパースカートを挟んだ。
3）アッパースカートはスパンチュールとスパークオーガンジーを使い、チュールで膨らみを出した。
4）肩に花柄サテンでストラップをつけた。
5）スカートは花柄サテンのタイトなロングスカートで後に深くスリットを入れた。
6）ドレスと同じ素材でヘアアクセサリーを作成した。

ディテール


フロント部分


バック部分

バックスカート

舞台本番風景Ａ

舞台本番風景Ｂ

NII-Electronic Library Service

Shukugawa Gakuin College

橘　喬子
イブニングドレス「薔薇の園」
2010年９月23日
第78回NDKファッションショー
NHK大阪ホール

NII-Electronic Library Service